

静岡県中部眼科医会総会および茶話会特別講演会開催案内

(日本眼科学会専門医制度生涯教育事業番号 19993)

向春の候、皆様におかれましては、益々、ご健勝のこととお喜び申し上げます
さて、令和7年度の「静岡県中部眼科医会総会および茶話会特別講演会」を下記の要領で開催致します。

ご多忙とは存じますが、奮ってご参加賜りますようよろしくお願い申し上げます。

謹白

日 時：2026年3月21日(土)

開催方法：現地開催

会 場：レイアップ御幸町ビル5-D 静岡市葵区御幸町11-8 TEL:054-269-5070

会 費：医師;2000円 視能訓練士等眼科コメディカル;1000円 その他;5000円

* 会場に直接お越しいただき、参加費の支払い、専門医の単位受付をお願いします。

総 会(15:30 ~ 16:00) (静岡県中部眼科医会の先生方)

特別講演(16:00 ~ 18:00)

1. 『 毎日の実臨床に生かすマイボーム腺機能不全の診断と治療 』 16:00~17:00

伊藤医院 副院長 有田 玲子 先生

2. 『 加齢黄斑変性の治療と病態：薬物療法、長期管理、病態制御への戦略 』 17:00~18:00

福島県立医科大学眼科学講座 教授 向井 亮 先生

※懇親会：ホテルアソシア静岡 梨杏 (着座型式で行います) 参加費 6000円

主 催：静岡県中部眼科医会

開催責任者：高良俊武

世話人：石川浩平、岡崎嘉樹、大岩和博

問合せ先：kouraganka@sand.ocn.ne.jp

.....

下記へご記入いただき、3月14日までに、054-364-1093 までFAXをお願い致します。

() 参加

() 不参加

() 懇親会参加希望

ご施設名

ご芳名

『 毎日の実臨床に生かすマイボーム腺機能不全の診断と治療 』

伊藤医院 副院長 有田 玲子 先生

【抄録】

マイボーム腺機能不全 (Meibomian Gland Dysfunction : MGD) は、ドライアイの主因であり、外来診療において日常的に多く遭遇する疾患である。一方で、アレルギー性結膜炎や眼瞼痙攣との鑑別など、診断や治療の進め方に迷う場面も少なくない。

近年、マイボグラフィなどの検査技術の進歩により、マイボーム腺の状態をより客観的に評価できるようになり、MGD に対する理解は大きく進展している。また、治療においても、温罨法やリッドハイジーンといった基本的なセルフケアに加え、さまざまな治療選択肢が広がっている。

本講演では、MGD の基本的な考え方を整理したうえで、日常診療の中で無理なく取り入れられる診断のポイントや、患者一人ひとりに合わせた治療の工夫について、事例を交えながらわかりやすく解説する。明日からの診療に少しでも役立つ知見を提供できれば幸いである。

【ご略歴】

- 1994 年 京都府立医科大学卒業
- 2001 年 京都府立医科大学大学院博士課程修了
- 2002 年 慶應義塾大学眼科助手
- 2005 年 伊藤医院眼科副院長
- 2007 年 東京大学眼科臨床研究員
- 2011 年 慶應義塾大学眼科講師(非常勤)
- 2012 年 Lid and Meibomian Gland (LIME) 研究会代表
- 2021 年 日本角膜学会評議員

『 加齢黄斑変性の治療と病態 : 薬物療法、長期管理、病態制御への戦略 』

福島県立医科大学眼科学講座 教授 向井 亮 先生

【抄録】

加齢黄斑変性 (age-related macular degeneration: AMD) は、高齢社会における主要な失明原因の一つとして極めて重要な疾患であり、特にアジア諸国では今後、罹患者数の急増が予想されている。本邦においても、2006年以降、新生血管型 AMD に対して抗血管内皮増殖因子薬 (抗 VEGF 薬) が臨床導入され、従来は不可避であった視力低下を免れ、視機能の維持や改善が可能となった症例が数多く報告されている。その結果、患者の Quality of Vision (QOV) および Quality of Life (QOL) は大きく向上した。

現在では、新規治療例、既治療例、さらには治療抵抗例に対しても抗 VEGF 薬治療が試みられ、それぞれの治療成績について多くの知見が蓄積されている。一方で、十分な治療効果が得られない症例や、長期治療に伴う新たな課題も明らかとなってきている。さらに 2025 年には、萎縮型 AMD に対する治療薬が上市され、その進行抑制効果に大きな期待が寄せられている。

本講演では、抗 VEGF 薬治療の現状と課題、手術的治療アプローチ、ならびに長期経過観察によって明らかとなった問題点について概説するとともに、萎縮型加齢黄斑変性に対する最新の治療戦略について、実際の症例を交えて紹介する。

【ご略歴】

平成 5 年 3 月	神奈川県立柏陽高校卒業
平成 10 年 3 月	京都大学薬学部卒業
平成 14 年 3 月	群馬大学医学部卒業
平成 14 年 6 月	群馬大学医学部附属病院医員 (研修医) (平成 16 年 5 月まで)
平成 16 年 6 月	ゆきぐに大和病院眼科診療科 (平成 17 年 5 月まで)
平成 17 年 6 月	総合太田病院 (平成 18 年 3 月まで)
平成 18 年 4 月	群馬大学医学部附属病院 医員 (平成 23 年 8 月まで)
平成 23 年 9 月	群馬大学医学部附属病院眼科 助教 (病院) (平成 29 年 7 月まで)
平成 29 年 8 月	群馬大学大学院医学系研究科眼科学分野 助教
平成 26 年 9 月	Massachusetts Eye & Ear Infirmary, Harvard Medical School, Senior Research Fellow (平成 29 年 5 月まで)
平成 30 年 11 月	群馬大学大学院医学系研究科眼科学分野 講師
令和 4 年 5 月	福島県立医科大学眼科学講座 准教授
令和 7 年 6 月	福島県立医科大学眼科学講座 教授